

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 博士学位審査過程の客観性と透明性を向上させるため、関係内規(要領)の整備を2011年度までに整備する。	→博士学位関係の内規整備。	B	A	A	A	/
2. 教育成果の定期的検証を行うため、FDワークショップを毎年実施する。	→FDワークショップの開催、参加者数。成果公表。	B	B	A	A	/
3. 進路調査を実施し、それに相応しい教育プログラムの深化を図る。	→進路調査の実施。卒業後の評価。	A	A	A	A	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	生じた問題や状況に応じて、数年ごとに博士学位に関する内規を整備してきた。また、言語コミュニケーション文化研究科は全般的な内規以外にも、より詳細な博士論文甲号、博士論文乙号(論文博士)に関する申し合わせ事項などを制定している。さらに、博士論文の審査基準を明文化し、2013年度より公表している。
目標2	前年度に引き続き、2012年12月19日にFDワークショップを行った。参加者数は教員4名、各研究領域からの博士前期課程の学生5名であった。授業内容やカリキュラム構成、言語コミュニケーション文化学会のあり方などについて、活発な意見交換がなされた。このFDワークショップの概要と成果は2013年1月の研究科委員会で報告、検討された。
目標3	言語コミュニケーション文化研究科では、博士前期課程を修了した学生を対象に、課程修了時の3月に(アンケートの一項目として)進路調査を実施している。2012年度の調査結果も2013年4月の研究科委員会で報告されている。
備考	